『新版 生物学と人間』正誤表

（赤坂甲治 編，裳華房 刊）

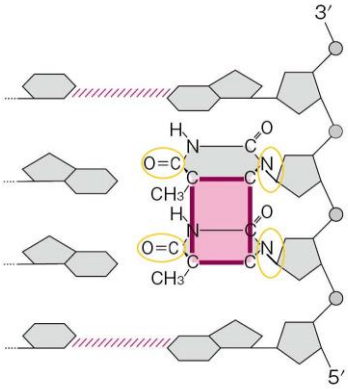
（2024/2/16 現在）

第 2 版 3 刷にて修正予定　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
104	1	をもつ DNA の	損傷をもつ DNA の

第 2 版 2 刷（2017 年 1 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
8	9,14,図 1･9	カルボキシル基	カルボキシ基　［4 箇所］
9	1		

図の修正	102 頁　図 6･1（右図） 

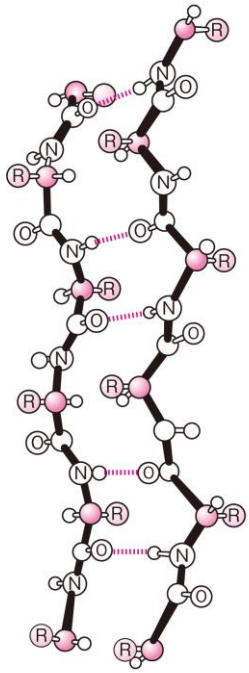
第 2 版 1 刷（2014 年 2 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
22	下から 4	100 万分の 1	20 万分の 1
49	2	アベリー	エイブリー
73	3	［末尾に下記を追加］ なお，性染色体以外の染色体を**常染色体**という．	
102	下から 5～2	［「塩基除去修復では……で修復する．」を下記に差し替える］ 塩基除去修復では，DNA グリコシラーゼが DNA の糖と塩基を結ぶグリコシル結合を切る．塩基が除去された部位はエンドヌクレアーゼとホスホジ	

		エステラーゼにより切断され，生じたギャップは DNA ポリメラーゼβが埋めて修復を完了させる．	
103	図 6･2①	DNA グリコシダーゼ	DNA グリコシラーゼ　［2 箇所］
213	左列	［16 行目の次に右記を追加］　常染色体　autosome　72,73	

図の修正

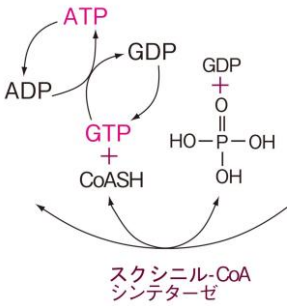
12 頁　図 1･11①　β シート



β- シート（逆平行）

32 頁　図 3･6　（修正箇所のみ；4 箇所）

33 頁　図 3･7　（修正箇所のみ）



第 1 版 3 刷（2012 年 2 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
9	13	ペプチド結合の N 原子と	ペプチド結合の N-H の水素原子（H）と
	14	カルボニル基との間で	カルボニル基の酸素原子（O）との間で
34	6	引力に対する	万有引力に対する
35	10	36 分子	38 分子
167	図 9･16 左側	疾患性プリオン	異常プリオン
	4	病原性プリオン	異常プリオン
	8	病原性のプリオン	異常プリオン
	下から 6	疾患性に変化させる．疾患性に変わったプリオンは	感染性がある異常プリオンに変化させる．異常プリオンは
	下から 4	疾患性のプリオン	異常プリオン
	下から 2	疾患性プリオン	異常プリオン

第 1 版 2 刷（2011 年 3 月発行）にて修正済み　（誤→正）

頁	行・見出番号	誤（修正箇所）	正（修正・加筆方法）
78	図 5･11	ウニ 3×10^{8}	ウニ 8.1×10^{8}